

WEEKLY SIGNAL

2020年7月22日(水) 1534号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	7/27(月)	7/28(火)	7/29(水)	7/30(木)	7/31(金)
無担保O/N			△ 0.087% ~ 0.001%		
銀行券	+ 800	トシ	トシ	トシ	+ 100
財政他	△ 43,000	+ 4,000	△ 3,000	+ 5,000	+ 9,000
資金需給	△ 42,200	+ 4,000	△ 3,000	+ 5,000	+ 9,100
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M) 国庫短期証券発行(6M)		国債発行(20年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 新型コロナ対応金融 CP等買入 △ 200 CP等買入 △ 700				米ドル資金供給用担保 + 2,100
オペスタート	国債買入 + 12,200 共通担保(全店) + 3,100 ETF買入 + 100 新型コロナ対応金融 CP + 45,500				
(日本)	日銀金融政策決定会合における 主な意見(7月14・15日分) 景気先行CI指数(5月) 景気一致指数(5月)			小売売上高(6月)	有効求人倍率(6月) 失業率(6月) 鉱工業生産(6月)
(海外)		米 FOMC (29日まで) 米 消費者信頼感指数(7月)	米 FOMC 声明発表、議長記者会見	米新規失業保険申請件数(7月25日終了週) 米 GDP (2Q) ユーロ圏 景況感指数	ユーロ圏 GDP(2Q) ユーロ圏 CPI(7月)

<インターバンク市場>

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△ 0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	△ 0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、446兆600億円から始まり、その後国債・国庫短期証券買入を主因に増加し週末には449兆7,900億円(予想値)となった。7月9日に発表された7月積み期のマクロ加算残高にかかる基準比率は、前積み期対比+3%の31.5%であった。そのため様々な業態で当座預金調整のための調達ニーズが強く、週初の無担保コールON物加重平均金利は先週末対比+0.002%の△0.035%で始まった。21日には複数の金融機関がプラス圏での試し取りを行ったことが加わり同金利は△0.030%となった。22日には試し取り要因が剥落したものの、週末5日積となるため調達ニーズが強く、同金利は△0.025%(予想値)となった。ターム物は1-2W物を中心に△0.040%~△0.025%の水準で取引された。来週の主な予定として国内では、日銀金融政策決定会合における主な意見(7月14・15日分)、6月の鉱工業生産(7月31日)、海外ではFOMC(7月28-29日)、4-6月の米GDP(7月30日)などがある。

<オープン市場>

CP3M(a-1+)	△ 0.01 ~ 0.01
TDB 3M	△ 0.120 ~ △ 0.075
現先(on/1w)	△ 0.04 ~ 0.00

<CP>

今週の入札発行総額は約8,000億円で、週間償還額(約2,900億円)を大きく上回った。営業日が少ないものの、新規案件と食品業や陸運業等の大型案件が実施され、活況となった。先週末の発行残高は24兆9,204億円であったが、21日時点では1,421億円増加し25兆625億円と、発行残高は高水準で推移している。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心であったが、引き続き一部銘柄で下限レートを切り下げる動きも見られた。来週の週間償還額は、月末日の大量償還(6,200億円)を含み約6,700億円となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行が見込まれるため、発行超を予想する。発行レートは、引き続き購入ニーズが強く0%前後の横ばい圏内での出合いと思われる。29日に、CP等買入オペが6,000億円でおこなわれる予定となっている。

<TDB>

21日の6M924回債(1/25償還)の入札は、最高落札利回り△0.1643%(前回債△0.1725%)、平均落札利回り△0.1703%(同△0.1764%)となり、入札後△0.173%で取引された。22日の3M925回債(10/26償還)の入札は、最高落札利回り△0.0822%(同△0.0822%)、平均落札利回り△0.0858%(同△0.0874%)となり、入札後△0.084%~△0.087%のレンジで出合いが見られた。そのほかセカンダリーでは3M921回債(10/12償還)は△0.082%~△0.095%、同923回債(10/12償還)は△0.084%~△0.09%、6M920回債(1/12償還)は△0.18%、1Y922回債(7/20償還)は△0.18%~△0.186%のレンジで取引された。また8月償還物で△0.065%~△0.07%のレンジで出合いが見られた。

<レポ>

足許GC取引は、週初△0.06%台からスタートしたものの、短国買入オペがオフアされた後は△0.07%近辺の出合いが中心となった。その後、短国3M・6Mの発行が重なった27日受渡しはレートが小幅上昇し、△0.07%~△0.06%で取引された。SC取引では、2年401~414回債、5年137~144回債、10年336~359回債、20年164~172回債、30年59~67回債、40年9~13回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。